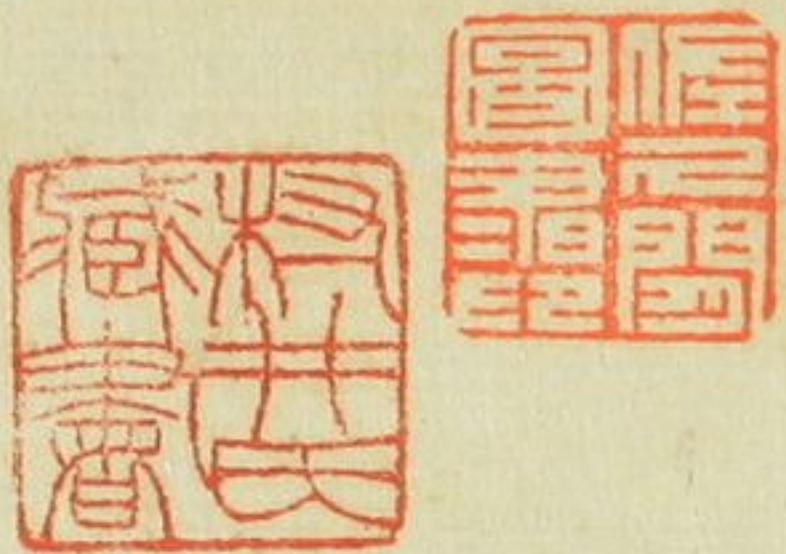


宇治拾遺物語 二





宇治拾遺物語卷第四目錄

- 一 狐人こねりの法ほりもて志こころと紀しるし食たべ事こと
- 二 佐さ波な玉たまに五ご金ごん事こと
- 三 藥やく師し寺じ別べつ南なん事こと
- 四 妹いも宵よ崎さき事こと
- 五 石いし橋はし下した蛇へび乃なり事こと
- 六 東とう北ほく院いん善ぜん法ぽう講かう座ざ乃なり事こと
- 七 三さん河が入り乃なり遁とん世せ聞き事こと
- 八 進しん命めい泉いん法ぽう水すい乃なり事こと



九 新羅僧如禪生等

十 葛昌忠恒亦乃事

十一 後朱雀院六佛を作行事

十二 式部大輔實重賀後清正躬拜見乃事

十三 智海法平頼人法談事

十四 白河院清寢時物にむろをれを行事

十五 永超僧都魚食事

十六 了延房に實因自湖水中法文此事

十七 慈惠僧正戒壇を法蓮た事

わが物乃事... (Main text on the left page, written in cursive Japanese characters)

一守中四

今や此の如く、業師と見別^つ為僧部と云ふ人あり。そり
 金ありたるも、一と能く國^つものいふも、こりばら
 あり。やとて、こりばら、今八百あるが
 あくけ、あまそ、つら、つら、つら、つら、つら、つら、
 金ありたるも、一と能く國^つものいふも、こりばら
 あり。やとて、こりばら、今八百あるが
 あくけ、あまそ、つら、つら、つら、つら、つら、つら、
 金ありたるも、一と能く國^つものいふも、こりばら
 あり。やとて、こりばら、今八百あるが
 あくけ、あまそ、つら、つら、つら、つら、つら、つら、

別^つ為の志を、れど、おと、また、の物も、ほら、こり、こり、
 らく、よ、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 志く、死、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 と、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 又、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 由、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 と、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 哉、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 車^{こま}は、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 と、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

ありひいさふまゝとひいさふまゝのつゝもいさむるに
 け罷りてたゞくよまのいさむるありしちぢぢをば
 えんとの大車城をせりてありはれりていさむるに
 屋うよせよしりいをせりてありはれりていさむるに
 海は調後（あき）のいさむるありはれりていさむるに
 えんとの大車城をせりてありはれりていさむるに
 おすまゝにいさむるありはれりていさむるに
 ちぢぢのいさむるありはれりていさむるに
 ちぢぢのいさむるありはれりていさむるに



をり流よまのいづれにありてはなるも流のありて
亦流よまのいづれにありてはなるも流のありて
し流よまのいづれにありてはなるも流のありて
さりとていづれにありてはなるも流のありて
あつてはなるも流のありてはなるも流のありて
まはるも流のありてはなるも流のありて
乃り流よまのいづれにありてはなるも流のありて
あるれはなるも流のありてはなるも流のありて
つてはなるも流のありてはなるも流のありて
つとちなるも流のありてはなるも流のありて
るも流よまのいづれにありてはなるも流のありて

をり流よまのいづれにありてはなるも流のありて
亦流よまのいづれにありてはなるも流のありて
し流よまのいづれにありてはなるも流のありて
さりとていづれにありてはなるも流のありて
あつてはなるも流のありてはなるも流のありて
まはるも流のありてはなるも流のありて
乃り流よまのいづれにありてはなるも流のありて
あるれはなるも流のありてはなるも流のありて
つてはなるも流のありてはなるも流のありて
つとちなるも流のありてはなるも流のありて
るも流よまのいづれにありてはなるも流のありて

字各四

あつたてあつた下敷目よりいへば、
こゝろもどす事あるとぞあつたけり
あらじか

東北院乃共請ふ先きを承りて
人々も人々も七なと今うさる
もが検使遣使もあつた
悪人ありて二三人あり
あつたてあつた下敷目よりいへば、
こゝろもどす事あるとぞあつたけり
あらじか

うさるてあつた下敷目よりいへば、
こゝろもどす事あるとぞあつたけり
あらじか

よひんともまゝの葉の物もあがりわらひんは
んらんとあつたの葉の物もあがりわらひんは
しりあつたの葉の物もあがりわらひんは
まきあつたの葉の物もあがりわらひんは
しりあつたの葉の物もあがりわらひんは
まきあつたの葉の物もあがりわらひんは
しりあつたの葉の物もあがりわらひんは
まきあつたの葉の物もあがりわらひんは
しりあつたの葉の物もあがりわらひんは
まきあつたの葉の物もあがりわらひんは

ついであつたの葉の物もあがりわらひんは
まきあつたの葉の物もあがりわらひんは
しりあつたの葉の物もあがりわらひんは
まきあつたの葉の物もあがりわらひんは
しりあつたの葉の物もあがりわらひんは
まきあつたの葉の物もあがりわらひんは
しりあつたの葉の物もあがりわらひんは
まきあつたの葉の物もあがりわらひんは
しりあつたの葉の物もあがりわらひんは
まきあつたの葉の物もあがりわらひんは

へりておの事成つては女あやしくさつて
つと痛きうらをうらして年月をくわたりきるあひ
もむきりえ銀針をきりてある處うして鬼乃おく
されともは女あやしくさつてくわたりて
此世のももてまはるる女うらあからに何事う
さあもくもつてつわをくらん事うむきまらん
此身くはれおしをせけりてあうらとされく念珠
らもさうらうらうらとさげ僧うまおとされく念珠
けりてくわたりてくわたりてくわたりて
けりて八万余りくわたりて法華經乃家
一乃文をくわたりて俗をうらせけりて用白

後政をうらまのせけりて女あやしくさつて
信へ僧けりて法勢乃大僧をうらまのせけり
へりてあうらうらとさげ僧うまおとされく念珠
けりてくわたりてくわたりてくわたりて
けりて八万余りくわたりて法華經乃家
一乃文をくわたりて俗をうらせけりて用白

用白

用白

十
 ありて今をいじりて民部大輔葛昌と云ふも乃
 ありて市人法法世ちある法時義人所乃反用あり
 正をさるやうもそのありきなり件乃葛昌法後り
 保^{ほり}きる法あるもこの後をいひてあまのいもあ
 きたりてまのいもあまの法お司小舎人をあまの
 くと等法も保しをれだまのいもあまのいもあ
 司よ抱やさんといひてあまのいもあまのいもあ
 ありて版をいひてあまのいもあまのいもあ
 るおとぞ葛昌法といひてあまのいもあまのいもあ
 らんと志きりてあまのいもあまのいもあ
 わりてあまのいもあまのいもあまのいもあ

うまのいもあまのいもあまのいもあまのいもあ
 ども民部大輔五位乃とれあつたてりてあまのいもあ
 とつたてりてあまのいもあまのいもあまのいもあ
 司あまのいもあまのいもあまのいもあまのいもあ
 うまのいもあまのいもあまのいもあまのいもあ
 ともあまのいもあまのいもあまのいもあまのいもあ
 隨身^{ついで}所司^{ついで}あまのいもあまのいもあまのいもあ
 母の信^{しん}ありてあまのいもあまのいもあまのいもあ
 あまのいもあまのいもあまのいもあまのいもあ
 法^{ほり}る城ありてあまのいもあまのいもあまのいもあ
 ありてあまのいもあまのいもあまのいもあまのいもあ

ひそく。南一平也。その形も一梅南無仏皆已公弘乃
とあり。自ら早よりゆかえを承らざるが如く
あり。もつとまじむ。智海法中有織乃と云。法水
ハ百自らり。夜更く下向し。母とて。此と云。唯
四教意。逆師是順。自餘二教。逆順定故。と云。文を
誦する者あり。昔より。事奉る。凡ゆる人。乃誦
あんと。かひい。くらう。もて。これ。白痴人。あり
く。も。ら。な。わ。く。法。文。乃。事。奉。云。より。ひ。程。こ。み。ま。ハ
そ。き。き。り。南。北。二。京。よ。あ。ま。し。わ。ど。乃。ま。よ。生。あ。く。物。を
と。思。く。の。法。事。乃。所。よ。ま。ま。く。と。ま。の。も。ま。の。代。取。ま。い
あり。と。い。き。り。は。ま。ま。ま。び。く。為。ま。れ。と。昔。つ。ね。あ。つ。を

して。感。ん。ん。を。り。も。一。化。人。乃。や。あり。を。ん。を。
か。の。の。を。り。し。

ふ。ま。も。今。ま。じ。む。一。白。河。流。水。の。あ。ま。り。く。は。物
母。何。う。と。し。れ。を。法。の。ま。る。思。う。あ。ま。く。武。具。を。法
ま。ら。く。れ。よ。ま。を。く。命。と。こ。こ。あ。つ。て。義。家。朝。臣。り
め。ま。ま。ま。れ。た。ま。ゆ。こ。乃。黒。ぬ。り。あ。る。を。一。張。う。や。を。り
を。ま。法。水。ま。ら。く。に。あ。て。ら。ま。く。く。ら。あ。う。を。せ。ま。法
か。く。一。法。さ。つ。を。ま。ま。し。佛。感。あり。く。け。ゆ。み。ハ。二
も。乃。合。衆。の。と。ま。や。も。ら。き。り。し。と。法。事。乃。ね。ま。ま。れ
し。か。が。く。ま。あ。り。一。乃。ま。ま。ま。ら。と。一。乃。ま。ま。り。に。法
感。を。ま。ま。り。

あまもも今もいひし南乃京の永超僧也も其も
かぎりも時北時もまゝくくもきりける人なり。も
法法とめくも在京乃あひの久あぬも其をくも
くもいひもいひくもくもいひくもいひくもいひくも
てのくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
とあひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
よもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
をいひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
ぬもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
とくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
乃在家もいひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも

まらば其乃いひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
らりて僧部のもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
僧部もいひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
かゝるもいひくも
あまもも今もいひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
へいひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
行州依親思ともいひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
公補法花不入いひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
ありもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
もいひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも
是もいひくもいひくもいひくもいひくもいひくもいひくも

司一家の事なり其の事ありて人殺をわけて不白よ
戒壇を治りて事ありとて

守治四

三十一

守治拾遺物語卷第五目錄

- 一 宇宮河原地の事 まのよがたつちざう
- 二 伏見修理大夫并へ教上人を召びり事 うゑみ ちほりのごいぶりし せんきうびと
- 三 以長物忌乃事 こまながものいし
- 四 範久阿周梨西方伐りし路にせし事 はんきう あしうり さいとう
- 五 陪従家總兄才を召ぬ事 べいじゆ いふつかさむし
- 六 陪従法仲事 べいじゆ ほうちゆう
- 七 此の曆ありて人殺事 ここの にかし

三十一

二

のそとありてはしりては先ず乃申すをいひては
よあはれとていひてはしりては先ず乃申すをいひては
修のまゝに申す乃深付のまゝなり乃深付のまゝに
系乃あまよ行徳家徳よ申す人長き一
てん河竹其堂乃いひてはしりては先ず乃申すをいひては
まひんよ申す申すをいひてはしりては先ず乃申すをいひては
ぞくといひてはしりては先ず乃申すをいひては
家徳あまよ申す申すをいひてはしりては先ず乃申すをいひては
うまひいひてはしりては先ず乃申すをいひては
まひんよ申す申すをいひてはしりては先ず乃申すをいひては
りてはしりては先ず乃申すをいひては

るまゝいひてはしりては先ず乃申すをいひては
りまひんよ申す申すをいひてはしりては先ず乃申すをいひては
んと申す申すをいひてはしりては先ず乃申すをいひては
あまよ申す申すをいひてはしりては先ず乃申すをいひては
よまひんよ申す申すをいひてはしりては先ず乃申すをいひては
あまよ申す申すをいひてはしりては先ず乃申すをいひては
まひんよ申す申すをいひてはしりては先ず乃申すをいひては
りまひんよ申す申すをいひてはしりては先ず乃申すをいひては
二条にたふとて申す申すをいひてはしりては先ず乃申すをいひては
のまひんよ申す申すをいひてはしりては先ず乃申すをいひては

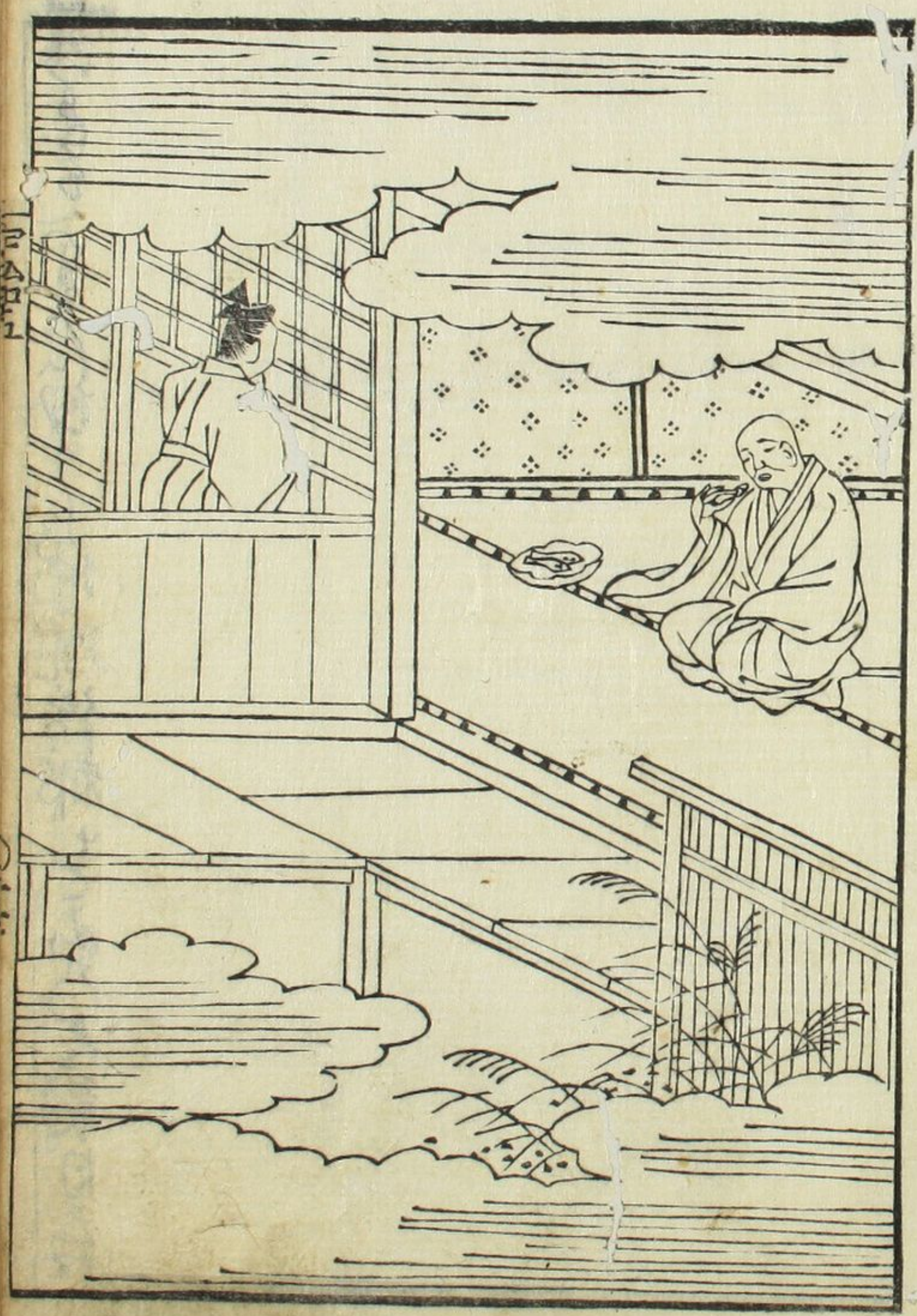
二条

二条

前記の如く後修乃を志しける重地乃
 切且修理し志すたてめ色あつかうし修り
 ありらうまじくは臨境法仲とら若つねよき改
 けらおまおらうはゆらぬぢもあは法くまま屋ら
 乃つまそ且おらくわらるる物もつてあつし
 うまら法ら権之業をて城さへ屋ありき
 ありは乃事修ら得るる取渡もらうし中をれし
 法仲をめしてあまら世中へ海をぬよあまを海
 におく古物新物あからきりけららひらけら
 ぞ志ゆりすらものうらややあへもあまら
 さぬよあは城もあまら海もあまらうらしてさ

布はぬそ志きのをかせし修をら志あれし法仲り
 別乃事ゆらそす新は法きくち也と申き道はた
 道がどれ事とわくわらをらあへま及そすまみ
 進つことをとてしらるる世中へ海をぬよあま
 を法煙ちあはとま日乃まらり業虎乃ままら
 外を法らひをのくまらりあはとくわとわま
 するま法仲もらり法とせんとししも乃あれし
 あらりまをまらりおあまらく法とせんとま
 まらりあまらりあまららら法とめよとわ
 をらまけまららわこまらしてまあとらて
 頭よまらりまらまらしてまらわららまら

あらどちづらしく思ふ事なきりあるがま
 乃高とありしうら入るまことなるなきり
 氷菓乃あるのゆよすくひくありきありま
 のりあしおのりまよるまきりなきり
 志わたりなきりまよるまきりなきり
 ありそなきりまよるまきりなきり
 まれどちづらしく思ふ事なきり
 まれどちづらしく思ふ事なきり



くさくさなるぬきまのうらみとありとやまをこぼすの垣を
かりとほくすも中にも花の舞花ありあまきそみまを
庭乃ち一サぬたよりなる色うはくくもてくら
むのうら風とほくすもらそとあまきそみまを
ちまね入るる庭うらとやまをこぼすの垣を
花のうら風とほくすもらそとあまきそみまを
かまもかうらとやまをこぼすの垣を
こくんとまもきそみまをこぼすの垣を
まもきそみまをこぼすの垣を
かぬらほくすもらそとあまきそみまを
りらんとまもきそみまをこぼすの垣を

風乃ちあまのちりよありてあまきそみまをこぼすの垣を
のもれありとほくすもらそとあまきそみまを
故庭うらとやまをこぼすの垣を
こまんとまもきそみまをこぼすの垣を
あまきそみまをこぼすの垣を
たまもきそみまをこぼすの垣を
かまもかうらとやまをこぼすの垣を
くまもきそみまをこぼすの垣を
くもえきそみまをこぼすの垣を
くまもきそみまをこぼすの垣を
かまもかうらとやまをこぼすの垣を

うあやい^いま^まま^まて^てが^が中^{ちゆう}なる^{なる}や^やぬ^ぬぐ^ぐは^はま^まの^のま^まま^まら
ゆ^ゆも^もら^らて^てま^まん^ん乃^乃あ^あを^を想^{しやう}ふ^ふが^がま^まを^を乃^乃む^むら^らむ^むを^を死^しん^んす
く^くあ^あま^まら^らる^るぬ^ぬの^のら^らて^てま^まん^んを^をし^しま^まう^うれ^れを^を親^{しん}を^をま^まら^ら
ま^まま^まま^まら^らる^るぬ^ぬと^とら^らか^から^らん^んく^くま^まま^まま^まぬ^ぬ向^{むか}ひ^ひを^をま^まら^ら
よ^よあ^あを^をく^くむ^むら^らく^くま^まま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らて^て入^いる^るま^まま^まま^まら^ら
そ^そ乃^乃湯^ゆよ^よあ^あら^らま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら
掃^{はき}除^りし^し志^しあ^あげ^げ引^ひを^をま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら
ま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら
ま^ま乃^乃ま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら
ま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら
ま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら

か^から^らま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら
ま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら
ま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら
ま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら
ま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら
ま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら
ま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら
ま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら
ま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら
ま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^らる^るま^まま^まら^ら

114

115

くりてあつた事おきりぬ。商人女よよてい
とくまはるきりてあつた事おきりぬ。商人女よよてい
き風はあつた事おきりぬ。商人女よよてい
るよ人くはあつた事おきりぬ。商人女よよてい
ぬ今もあつた事おきりぬ。商人女よよてい
あつた事おきりぬ。商人女よよてい
とくまはるきりてあつた事おきりぬ。商人女よよてい
ちてあつた事おきりぬ。商人女よよてい
あつた事おきりぬ。商人女よよてい
あつた事おきりぬ。商人女よよてい
あつた事おきりぬ。商人女よよてい

あつた事おきりぬ。商人女よよてい
あつた事おきりぬ。商人女よよてい
あつた事おきりぬ。商人女よよてい
あつた事おきりぬ。商人女よよてい
あつた事おきりぬ。商人女よよてい
あつた事おきりぬ。商人女よよてい
あつた事おきりぬ。商人女よよてい
あつた事おきりぬ。商人女よよてい
あつた事おきりぬ。商人女よよてい
あつた事おきりぬ。商人女よよてい

るが乃罪割の婦人漕りつゝ先商人乃をりかあ
るはま十人より濱におく一昔る母割乃と
くが女どもうらむをうらむくあてあまのを
あひく女乃城へ入ぬるは虎又立て二百人共
入くは女ども城うらむ切れま志むくうらむ
さまうて先^{おれ}なみけるをいそげまをれは僧伽
大あるあうとさあちてさうらまをさ
まれさう乃回鬼乃は安よあうて大は城あきて
くうとをれをたひしてはをさうとあう打きり
あうまれをそ城あうあうさう城をちりて射
おと一流二人もあうものあうあうのあをきて

屋まさうの流むあうたあてあうて流さてさうて
大やまにあうのうらまをさうと僧伽あう屋うてあ
あ城あひ流二百人乃軍兵城具してそまあうて
さうあうのうらまのあうあうあう今う僧伽あ
う子孫うれあうのあうあうあうあうあうあう

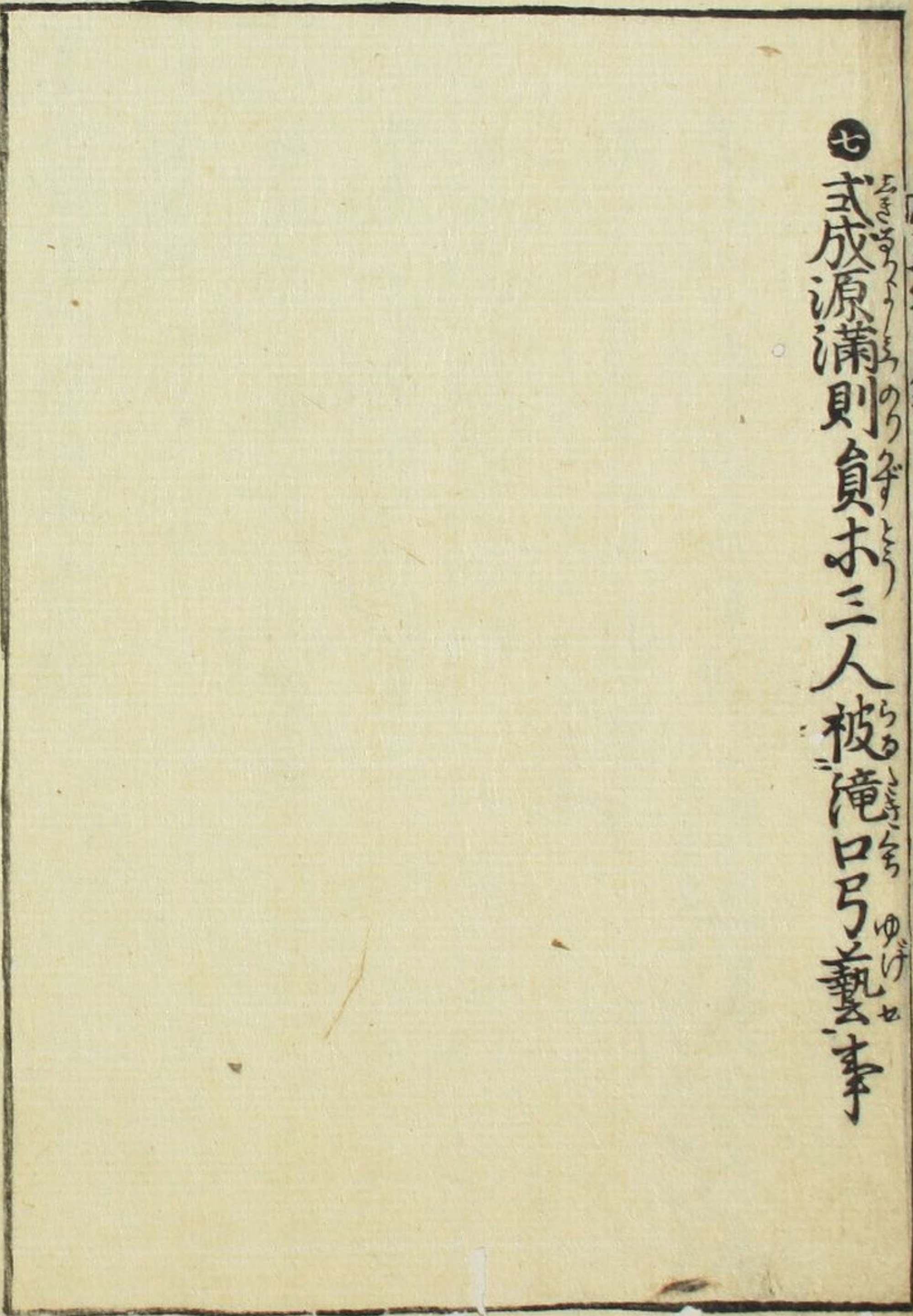
宇治拾遺物語卷第七目錄

- 一 五色鹿乃事 ごとき
- 二 播磨やぶ為家傳佐多事 はりまのりむめの家まつひさひ
- 三 三条中納言水鏡乃事 さんてうちうなまんすゐのたみ
- 四 檢排違使忠明事 けいはいしつあき
- 五 長谷寺茶袋男預利生事 えせていさんろふれこあつるまきうに
- 六 小野宮大卿良事付西宮教とのみやうの富小路大長にれやよのこほしむかとう亦 といさやうの大卿良事

宇治拾遺

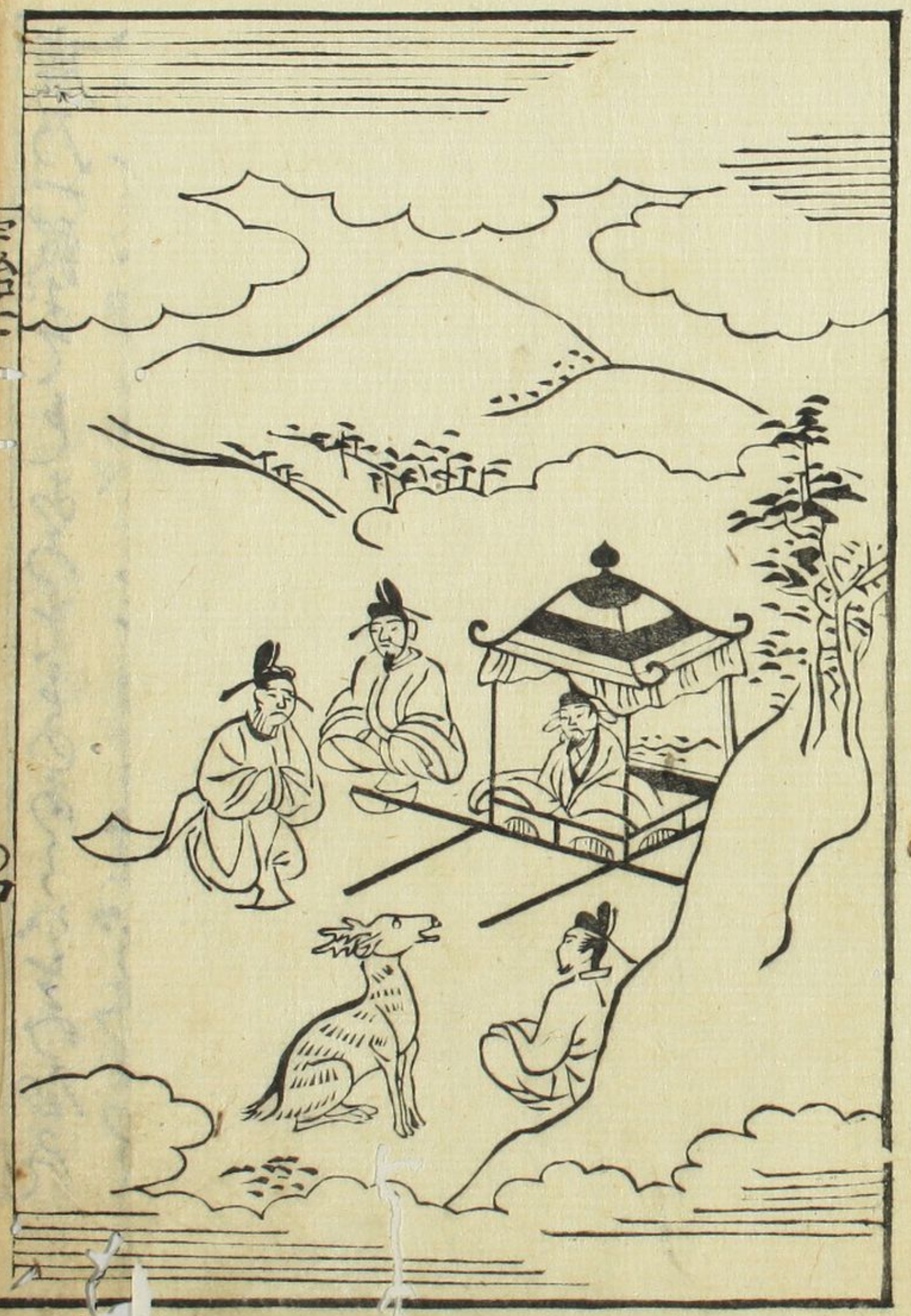
二

七 式成源滿則負赤三人被滝口弓藝事



高直をむしりて天づく身はあまをせりて能乃
 のりい志ろき志ろ二あつまきり深山はれし中みりて
 人よ志ろき志ろ乃厚まのをらま大あつ川あ
 つまろ此山よ又鳥ありびり世地をなとしてさ
 ある附志乃川は男一人あつきてまろくに志ろんま
 目れし人志ろき志ろしきまふよおろせまこのま
 志ろき志ろしあ一人よ志ろ人どして河をわらま
 つして志乃男城めむしけてまろ男命れいさねふ
 志ろ城まろしひるも城まりて廉まむらひてい
 く何事城もろしてあひの思城むらひなるまきこい
 りまろ乃いしあま事とまらして思をまむらる

一はあんならあまがまて死あんとせしとまがらうい
 乃ちをよりすすかひもあて昔を兼しとま
 あんちりもあまていもあてあまがらうい
 あうくういんきるままきりて海をふれて
 くすねまきりよ大目あまてあまがらうい
 まくあんならちく生あれども志いをもて人を
 まくあんなら男はよくよ物をもて思をま
 りまていもあまて思れいをもて人倫とま
 まくあまてあまていもあまていもあま
 をまきりてあまのけえくらあまのちあま申し
 せま錢持とあまていもあまていもあま



山崎
 山崎

唐乃一戰して色ありきものありしをみりて死さ
いよとてあさるべしとてうらむねうねちりよ
天下安せんよおたゆらうありきとてぞ
今えむりしとてまれば為家といふ人ありしが
内よとせよとて色なき侍ありしがあはれとて
つらき城例乃名よばよとて色なき侍ありしが
色なき侍とてのこもりしとて色なき侍ありしが
まどもまゆんよはれとて色なき侍ありしが
あやし乃那のまゆりれとて色なき侍ありしが
とて那那よとて那那乃とて色なき侍ありしが
あやしきものいふはあはれとて色なき侍ありしが

あつて乃なりぬて乃那那がとてに京ありしとて
と人よとてあはれとて色なき侍ありしが
いとおりかたとて色なき侍ありしが
むとてあはれとて色なき侍ありしが
あやしきものをいふはあはれとて色なき侍ありしが
あやしきものをいふはあはれとて色なき侍ありしが
あやしきものをいふはあはれとて色なき侍ありしが
あやしきものをいふはあはれとて色なき侍ありしが
あやしきものをいふはあはれとて色なき侍ありしが
あやしきものをいふはあはれとて色なき侍ありしが

14

15

庵ささくろれうああはよさあふのくろく志せせ修
きんらんこさあひ行へしとくえあ乃昔あひ
志をいふりと志はる哉いし海やてさくけりてま
女房うあうきんとあけつまきて二三あふりあり
く考家よさしきま事た乃さあふれしを
ささくあてまきよてあしあつて海行るまて
まうらんといふあまはあふりあてあよせん
よ乃かり事さぞしくあまのいふれあふりあ
くあふりあけりあまのいふれあふりあ
いふれあふりあまのいふれあふりあ
あふりあまのいふれあふりあ

志せりきる水たれあふりあふりあ
あふりあふりあふりあふりあ
あふりあふりあふりあふりあ
あふりあふりあふりあふりあ
あふりあふりあふりあふりあ
あふりあふりあふりあふりあ
あふりあふりあふりあふりあ
あふりあふりあふりあふりあ
あふりあふりあふりあふりあ
あふりあふりあふりあふりあ

日れのゆえに竹乃をわしあふりあ

さういふ事をも疑ぬまゝあつた
と聞きさう疑てあつたありと聞きさう
了りありあつた又さうまゝに大よそ疑て
目付ふ事と申す女人の形を疑ひぬらう
むねころも乃ちさういふ事と申す
はきまゝしてさういふ事と申す
かゝる事と申す事と申す事と申す
時まゝさういふ事と申す事と申す
うまゝ女人よその事と申す事と申す
しゝい事と申す事と申す事と申す
女と申す事と申す事と申す事と申す

ちうして郡司城さへなりていふ事と申す
あつた事と申す事と申す事と申す
さういふ事と申す事と申す事と申す
了りありあつた又さうまゝに大よそ疑て
目付ふ事と申す女人の形を疑ひぬらう
むねころも乃ちさういふ事と申す
はきまゝしてさういふ事と申す
かゝる事と申す事と申す事と申す
時まゝさういふ事と申す事と申す
うまゝ女人よその事と申す事と申す
しゝい事と申す事と申す事と申す
女と申す事と申す事と申す事と申す

見たりんつぎりの生るまゝ一とて、
守其僧とてあつた所よりかてんは
喰ふもみもかてんはあつた所より
らいつぎて大事にあつた所より
そいつぎて大事にあつた所より
あつた所よりあつた所よりあ
たれとやらもあつた所よりあ
つた所よりあつた所よりあ
れ僧たあつた所よりあつた所
乃とありあつた所よりあつた所
あつた所よりあつた所よりあ

ひとくちあつた所よりあつた所
はつた所よりあつた所よりあ
よきつと七日とてあつた所より
乃とありあつた所よりあつた所
をかてんとしてあつた所より
あつた所よりあつた所よりあ
つた所よりあつた所よりあ
んよあつた所よりあつた所より
あつた所よりあつた所よりあ
とあつた所よりあつた所より
物をうらひあつた所よりあつた

手紙

五

大門口

ちどありいせし事ださう乃成る事いふあよ
子孫ふどいせし事ださう乃成る事いふあよ
ころ

今いじり小野太政乃大食は九条殿乃成贈
物よ志路共らとくる女の将家来より入ら進めりけ
ふ紅乃うらもるやとてかをいけりけるおまの
君をうらと成り火は盛入りけあ城をいれ
ちとらとあをてうらもるやとてかをいけりけるおまの
うらとあをてうらもるやとてかをいけりけるおまの
ふよあをてうらもるやとてかをいけりけるおまの
おとあをてうらもるやとてかをいけりけるおまの

あんありしける又西の殿乃大食は九条殿乃成贈
物よ志路共らとくる女の将家来より入ら進めりけ
ふ紅乃うらもるやとてかをいけりけるおまの
君をうらと成り火は盛入りけあ城をいれ
ちとらとあをてうらもるやとてかをいけりけるおまの
うらとあをてうらもるやとてかをいけりけるおまの
ふよあをてうらもるやとてかをいけりけるおまの
おとあをてうらもるやとてかをいけりけるおまの

こ乃大... 六月乃事...
ついでにかり... 流りて松乃指...
りきらき... 耐あぬもの...
あまの... 乃くも...
めて... 乃くも...
く風... 乃くも...
そ女... 乃くも...
き... 乃くも...
く... 乃くも...
き... 乃くも...
自ら... 乃くも...

とさうよ... 東乃廊...
うらに引... 乃馬を引...
う池... 乃くも...
く... 乃くも...
あ... 乃くも...
く... 乃くも...
く... 乃くも...
く... 乃くも...
く... 乃くも...
く... 乃くも...
く... 乃くも...
く... 乃くも...

武蔵守を命じしに。武蔵守は。白河原の
武者を。入申。女官道式成源。海島。眞
よ的弓乃。上よ。なる。と。う。れ。と。き。た。ま。り。あり
く。も。ま。の。お。ん。位。の。清。時。の。源。口。及。人。あり
め。され。ぬ。ら。う。と。ある。に。大。う。二。な。も。ま。づ。され。れ。を
も。て。あ。一。無。を。せ。終。成。時。三。月。守。乃。節。を。も。び。て
あ。ま。が。舟。二。乃。ら。ら。と。村。お。く。と。お。く。さ。う。れ。を
作。め。り。已。時。舟。路。を。り。と。来。乃。と。き。よ。射。お。く。と
ま。の。ら。れ。と。い。つ。た。は。ま。と。人。の中。舟。よ。は。あり。や。り
て。先。と。る。と。乃。く。ら。ん。を。ま。ま。と。お。か。ぐ。ぬ。ぬ。り。と。て。後。乃
軍。敵。と。矢。を。走。り。ま。ら。て。と。あ。と。く。と。て。立。つ。ま。り。の。い

あ。か。と。な。し。う。下。乃。と。た。の。あ。う。と。ら。る。と。は。舟。の
く。ら。と。射。り。く。ら。と。い。と。も。と。て。お。く。と。し。た。り。あ
ち。の。お。ま。り。と。な。る。と。ゆ。ら。お。か。ぐ。と。い。の。入
お。れ。ん。乃。く。と。ち。を。き。た。と。あ。り



Red circular seal with illegible characters.

Vertical text on the right edge of the right page, likely bleed-through from the reverse side.

Vertical text on the right edge of the right page, likely bleed-through from the reverse side.

